

校友会誌

追い風に変えて飛躍!!



第47号

発行所
東北歯科技工専門学校
校友会広報委員会
〒982-0841
仙台市太白区山四丁目27の8
TEL (022) 266-0237
FAX (022) 266-0238
URL <http://www.toushigi.ac.jp>
E-mail info-2@toushigi.ac.jp

メディアを味方に!!

昨年は本会設立から四十年となる節目の年で、それを祝う記念行事が多くの会員の参加協力の下盛大に行われ、成功裏に終えることが出来た。あれから一年、第四十一回となる定時総会もより、記念講演会、懇親会の一連の行事が、先ごろ行われた理事会及び評議員会において、来たる七月十日に開催されることが決定された。総会に先立って行われる記念講演会には、近年目覚ましい活躍をされている奥森健史先生を講師にお招きし、お話しして頂きます。

校友会創設四十一年目にむけて

会長 菅野 恭助

木々の緑が目にも鮮やかな季節となりました。今日この頃、会員の皆様方にはご健勝のことと推察致します。

さて、早くも今年の定時総会の次期が参りました。昨年は校友会創設四十周年の記念大会でしたが、例年にもまして多くの会員の皆様や仙台市内の他の技工士学校の学生、歯科技工士会会員の皆様の参加をえて講演会は大盛況の内に終わり、こんなに勉強熱心で活力のある歯科技工士が沢山いるのだなど、改めて実感した次第です。それと同時に私たちが役員にお



でも、魅力のある会であると共に、講演会講師の先生の選択においても、良い選択がなされれば多くの会員が参加してくるのだと言うことも思わされて、昨今歯科界では歯科技工士という職種、職名及び内容が各種メディア等で度々取り上げられるのが目につくようになっております。その内容等に付いては、歯科技工士のこと必ずしも良好な伝え方がされているかというところがいろいろではありません。しかし、つい最近までは取り上げられることが皆無に等しかった歯科技工士という職業について、世間一般の人達にも多くの注目を浴びていることは事実として認識しなくてはならないと思います。

最近においても「報道特集NEXT」というテレビ番組で、中国に発注され

た歯科技工物に対する問題が取り上げられて、二週にわたって全国放送されました。また、河北新報の第一面に歯科技工士という言葉がデカデカと載って皆さんビックリされたことも記憶に新しいと思います。このように歯科技工という職種が注目されたことは、それがたとえマイナーな報道とされ方であっても、そのことを逆に発想する事によって、それを飛躍に替えることができる一つのチャンスだと言うことも考えられます。このように歯科技工士はもとより、歯科医療界全体が大きく変動しているのが状況です。本会会員の皆様方にも、そのような情勢に乗って目をそばだててお

た歯科技工物に対する問題が取り上げられて、二週にわたって全国放送されました。また、河北新報の第一面に歯科技工士という言葉がデカデカと載って皆さんビックリされたことも記憶に新しいと思います。このように歯科技工という職種が注目されたことは、それがたとえマイナーな報道とされ方であっても、そのことを逆に発想する事によって、それを飛躍に替えることができる一つのチャンスだと言うことも考えられます。このように歯科技工士はもとより、歯科医療界全体が大きく変動しているのが状況です。本会会員の皆様方にも、そのような情勢に乗って目をそばだててお

記念講演会・総会・懇親会

デンチャーワールドへシュート

7月10日開催決定

第四十一回となる総会並びに記念講演会として懇親会が、来たる七月十日(土)、仙台市青葉区錦町にあるKKRホテル仙台を会場に開催されることになりました。

初めに午後三時より記念講演会が行われます。今回の講師は奈良県で、有限会社「デンタルプロダクト」(デンタルプロダクト)を開業されている奥森健史先生におこしいたさき、Partial Removal Prosthodontics、二十一世紀の欠損補綴へのアプローチ、インプラント時代における新たな概念と融合」と題し講演していただきます。

奥森先生は東洋医療専

門学校を卒業され、現在は母校の非常勤講師や咬合・補綴治療セミナー、インストラクター及び日本補綴構造設計士協会の師範講師もされています。さらにはKSI研修企画と言う研修機関を自ら主宰された、歯科技工情報誌に多くの文庫を掲載されているなど、大変お忙しい中、活躍されておられます。

講演会では今の長寿国日本を支えてきたパースナルデンチャーでの治療に加え、近年はインプラント補綴が取り入れられるようになり、それに伴ったオーバーデンチャーやパーシャルデンチャーも

更なる選択の一つになってきています。そうした時代の中にあり、補綴概念もおのずとその流れとともに変化しており、それに即応したパーシャルデンチャーの設計について講演していただけるものと思います。

これからのデンチャーを考えると、とても興味深い講演内容が聴けるものと思いますので、是非多くの会員に聴講していただき、と思います。

講演会終了後、同会場において午後五時十五分より定時総会が開催されます。是非多くの方々に出席して頂き、忌憚のない意見を聞かせていただき

き、より良い会に育てていってほしいものです。その後、午後六時から同ホテルにて懇親会が開催されます。そして今年もまた多くの賞品を用意しております。是非同級生同士などお誘いあわせの上参加していただき、楽しいひと時を過ごしてほしいと思います。

▼会費
記念講演会 一、〇〇〇円
・本会会員 無 料
・技工士会員 三、〇〇〇円
・学生 五、〇〇〇円
懇親会
・本会会員 四、〇〇〇円
・新入会員 二、〇〇〇円
・一般 六、〇〇〇円

Partial Removal Prosthodontics

“21世紀の欠損補綴へのアプローチ、インプラント時代における新たな概念と融合”

演者 奥森 健史 先生



「欠損補綴を語るなら、パーシャルデンチャーから…」という言葉は、世界水準を意識する長寿国・日本の補綴治療において、いずれ、「キーワード」となるでしょう。

現在欠損部補綴には、インプラントを固定源とした、固定性のクラウン、ブリッジを希望する患者が増加しつつある中、高齢や全身疾患を有する患者に対して大掛かりな、外科的侵襲を避けるケースもあります。言い換えれば、すべての欠損補綴の患者にインプラントを使用出来れば、理想となるが、実際の臨床ではそうでないのが、現状です。とくに欧米にくらべて、骨格的にリスクのある日本人には、そのマニュアルが、適応しないケースも少なくないと思います。よって、リムーバブルデンチャー

の適応は、必要不可欠となります。

しかし、臼歯部の遊離端連続欠損などを、パーシャルデンチャーにて対応する場合、歯根膜を要する天然歯と欠損部頸堤では、機能的には約5倍の沈下量の差がある。よってデンチャーの動きをコントロールした設計にて対応してきましたが、近年ではパーシャルデンチャー床下の最速心にインプラントを設定することで、それらが回避したケースも少なくない。このような、双方の補完関係により時代に即した補綴デザインの概念も新しいテキストの1ページとなります。

今一度、先人たちの構築してきた、デンチャーワークの方程式を整理しつつ、この審美・インプラント時代に、“機能と構造力学”を、モディファイすべきでしょう。よってパーシャルデンチャーは“総義歯へのプロローグ”、という認識ではなく、いかにパーシャルで欠損歯列を安定させるかという概念を、総合的な診断から補綴設計にて製作することがベストとなります。

そこで、筆者と長きにわたり、御厚誼いただいている、八巻先生より熱いメッセージをいただき、東北の皆様とお会いできることを、楽しみにしております。

今回は、パーシャルデンチャーの設計における Basicsな部分から、それをインプラント、オーバーデンチャーに应用した“力のコントロール”を New Conceptとして考察したいと思います。

草話

今回は、草話(挿話)担当になった。広報会議の際、昨年、亡くなった友人のことを書きたいとみんなに話したが、彼女の事も伝えたかったが、癌のため短く小さくなってしまった彼女の姿をみたとき、高校時代の出来事を思い出して、その事を、どうしても書きたいと思った。

いざ書き始めると、文章がでてこない。書き出しの数行と、高校時代の出来事のみ。一向に進まない。締め切りまで、一週間を切った。数日考えて、私の文章力と、薄っぺらな生き方は、きちんと伝えることは出来ない。もう少し、時間をかけて、書きたいと思いつつ、あきらめることにした。

さて何について、書くか。私に与えられた文字数は、約千三百字。通常の原稿用紙三枚強である。ノートに書き出したことを思いつくままに書き出していく。これは、今更だと思ふものを、文章にしていけるが、話が膨らまない。

言葉が出てこないのが、学生のころから、作文は苦手だった。読書感想文にいたっては、あらずじたいで終わる始末であった。ここ数年は年賀状に添える一言も同じ内容である。メールにしても要件だけの短文のみ。時間も過ぎていく。

よくよく考えてみると、最近、同じことの繰り返しで、職場と家の往復のみ。これといった出来事は起きていない。

実は今、ゴールデンウィークである。今年はカレンダーどおり休日になり、四連休。しかし私は、パソコンに向かいこの原稿を書いている。締め切りは、六月。外は、四月の寒さが嘘のよう。すこぶる天気がよい。

家のベランダには、瀬川が見え、宮沢橋には鯉のぼりがざらりと並び、青空の下、気持ちよさそうに泳いでいる。河川敷では、いべんが開かれ、大勢の人でにぎわっているのが見える。

よい天気だから、ネタを探してみようかと考えてみた。だが、「〇〇芸人」を集めてのトーク番組で、ある芸人さんが「休日になんか出会うことを期待して、一日中渋谷を歩き回った。しかし、何も起きず、たまたま、靴擦れだけした。」と

話していたのを思い出した。話しては、あつた。いかに、目的の無い行動は苦手で、まったく知らないうちに、出来れば避けたい。外に出て、目的の無い歩行は、ひたすら歩くだけ(歩幅は、開けようとは、思わない。だから、面白いことに出くわすこともない。その番組のくり返しは、「人見知り」だった。すべてではないが、思い当たるところがあった。

「誰にでも好かれようと思ふな」と、人見知り克服法としてアドバイスが、あつた。なるほどと思うが、やっぱり他人がどう思うか、きになってしまふ。

はじめに書くことと思つたことも、(自分のことではないのに)特になんか読む人がどうとらえるのか、ともなう、気がなやまず、規模も小さいが、自分の書いたものが公になるのだから、責任がでてくる。そんなことを気にせず、お気楽なことを書き、お気楽に読んでもらえれば、いいのかもしれない。

マンガ小劇場
一同窓会
No.63 作画: 田辺秀樹



入学金助成制度 三名が利用し学生生活をスタート

前回の総会において全会一致で承認された。母に入学を希望する卒業生に限り、入学金の一部を本会から負担助成するという制度ができた。卒業生の子供が、この春初めて入学を果した。親子二代の歯科技工士を目指す、母校での学生生活をスタートさせた。

今回この制度を利用して入学した学生は三名で、内一名は本会未加入だったため、再入会の手続きをとって助成制度を利用している。

そもそもこの制度は、近年の歯科技工士希望者の不足から、母校を始めとする養成校へ、入学者が年々減少。また離職者数の増加による歯科技工士従事者の減少という現状に、少しでも歯止めをかけたという意図から定時総会の議題に取り上げられ、決定した制度だ。具体的には入学金八十万円の内二十万円を、なんと入学金の四分の一を本会から援助してくれるというものだ。

母校に入学を希望する子弟を持つ会員にとって、今この厳しい社会経済下において朗報であり、最

高の特典を得ることができるとは、是非利用してもらいたいものだ。この入学金助成制度を希望する場合は、母校入学案内係までお問い合わせ下さい。ただし本会未加入の卒業生の場合は本会への入会手続きが必要となるため、本会までご連絡下さい。平成二十三年度生の募集内容は以下の通りとなっている。

推薦受付
十月一日より
一般 十月二十五日より
その他の詳しい入試要項などは、直接母校へお問い合わせ下さい。

『ミスアーツアクトに参加して』
龍責デニタル 早坂龍二



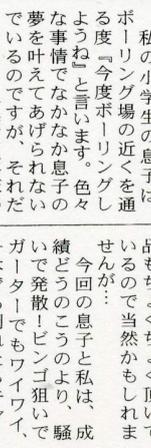
話では聞いておりましたが、出発してすぐに宴会が始まり、あまり飲めない私としては付いて行くのがやっとならぬ(笑)。
目的の地に到着、昼食も日本料理屋の『漁師の家』食事を戴き、その後酒田『夢の倶楽部』や最上川の船下りなど、久しぶりに旅行気分を味わわせていただきとても有意義な一日になりました。欲を云えば、高だつたので、良ければ尚最高だつたのが！
又、帰りのバスの中では、更に宴会は続き若い人達とも色々話しかけ出されて、とても楽しい時間を過ごす事が出来ました。途中トイレタイムで何度もバスを止め、皆様には大変ご迷惑をお掛けした事を申し訳なく思っております。

大募集

- ◎広報委員 一緒に新聞づくりをお手伝いして下さる方を募集いたします。
- ◎原稿 内容は問いません。ぜひご投稿下さい。
- ◎4コママンガ
- ◎イラスト
- ◎掲示板として 同級会のお知らせなど、同級生への連絡ツールとして利用してもOK!

成績発表
一位 近藤正昭 (二股)
二位 菅田宗明 (三九回生)
三位 後藤真弘 (二九回生)

私の小学生の息子は、ボーリング場の近くを通る度『今度ボーリングしようね』と言います。色々な事情でなかなか息子の夢を叶えてあげられないのですが、それだけに年に一度の東枝のボーリング大会(忘年会)には、毎年家族で参加するのが楽しみにしているのです。
今年も『先行つるね』と飛び出した私『場所分かつたよ!』と、夫『勝山でしょ!』『違うよ!』一番狂ったが、『えっ!私に卒業した学校の行事なのに、私より詳しい夫に苦しい。まっ、豪華賞品もよくよく頂いているので当然かもしれませんが、
今回の息子と私は、成績どうのこのより、騒いで発散!ピンコ狙いで、一本でも倒れたらキョー、隣のレーンの人達も巻き込んで大盛り上がりでした。
ゲーム終了後は、近くの『月の宴』にて表彰式を兼ねた忘年会が行われました。
総会懇親会のピュツフェ形式に慣れてしまつた私たちには、フランス料理のように時間をかけて出てくるたびに、まる



でハイエナのようにそれらに群がりお店の人を呆れさせてはと心配していましたが、はははと食べて、おまけに賞品まで頂いて家族一同大満足の一日でした。
E・K

ETCを車につけると、料金が割引きになると聞いて我が家もそれではついでという事になりました。カーショップに行つてみたものの品切れで何軒か当たってやまら、その受付も三時間待ち。しかも受け付けたところで納品がまた四週間後。それでも価値がとれ取り付けたが、もうそれもなくという。苦労をして手に入れたもの、そう簡単に変わったものか。生活支援金に高くなるのでは、別に支給されなくても良かったのではないかとさえ思えてしまふ。いよいよ振り回されているとしか思えない。いかにも得と思わせておいて、裏があるというのだ。あれこれ周りに振り回されても、真実を見極め自分にとって何が正しいか自分自身を見つめ直し生活していきたいものである。
会誌「窓」では会員同士の情報の充実を図るため何かご意見ご要望などありましたら、校友会広報の方までお知らせください。なるべく親しみのあふれる紙面作りに役立てていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

